

平成 15 年病害虫の発生と防除

昨年は、梅雨期間から夏期間にかけて低温・日照不足となり、北日本では水稻の不稔とともに、近年にないいもち病の多発生となり、農作物への気象の影響が例年に多く見られた。本年の病害虫防除対策に向けて様々な検討が進められているところであるが、本年の病害虫防除対策の検討資料として、昨年公表された気象庁資料、各県の発生予察情報および各種統計報告を基に、昨年の気象経過、主要病害虫発生概況および植物防疫事業概要をまとめた。

I 平成 15 年の天候経過の概要

冬期間（平成 14 年 12 月～平成 15 年 2 月）の経過は、平均気温が北日本で低く、東日本、西日本で平年並、南西諸島で高くなった。冬型の気圧配置が強まったり弱まったりと気圧の影響を受ける時期が交互に現れたため、気温は周期的に大きく変化し、12 月には北日本および東日本で低温となり、1 月上旬には全国的に低温、2 月には暖かい時期もあり東日本以西では高温となった。（図-1 参照）

春期間（3 月～5 月）の経過は、前半は冬型の気圧配置となったため気温の低い時期があったものの、後半は日本海を通過する低気圧に吹き込む南風等により気温の高い日が多くなり、気温は 4 月、5 月に全国的に高温となった。

梅雨入りは全国的に平年より遅れ、5 月 15 日に平年より 7 日遅く沖縄が梅雨入りしたことを皮切りに、4 日～11 日遅く 6 月 9 日ごろに九州が梅雨入りした。6 月 10 日ごろには四国地域から関東甲信地域まで一気に梅雨入りし、2 日遅れて北陸、東北が梅雨入りした。梅雨時期は、西日本では災害が生じるほどの集中豪雨が発生し、東日本および関東では北東気流により低温となった。梅雨明けは、沖縄および奄美が平年並であったが、その他の地域では 9 日～14 日遅くなり、北東気流の影響を受けた東北地域では梅雨明けが特定されなかった。

夏期間（6 月～8 月）の経過は、6 月上旬は北日本および東日本で高温となった。6 月中旬から本州付近に停滞していた梅雨前線の影響により東日本、西日本では日

農林水産省消費・安全局植物防疫課

照不足となり、高気圧に覆われた北海道では晴れの日が多かった。7 月に入り、オホーツク高気圧が優勢となり、太平洋高気圧の張り出しが弱かったため、梅雨前線は本州南岸に停滞し、北日本から西日本で著しい低温、日照不足となった。その後、8 月上旬と下旬にオホーツク高気圧が弱まり、太平洋高気圧が強まり晴れる日が多くなった地域では、低温、日照不足は解消に向かったが、北日本では低温、日照不足が続いた。8 月上旬後半には台風 10 号が南西諸島を通過し四国に上陸し、日本を縦断する形で北上し、各地で大雨や強風となった（図-1 参照）。

9 月上旬には、東日本以西では晴れて暑い日が続き残暑が厳しく、北日本では前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。その後、中旬から下旬にかけて台風 14 号と 15 号により各地で大雨や強風となった。下旬は短い周期で変化する中、強い寒気が日本付近へ南下したため気温の低い時期があった。10 月に入り、晴れる日が多くなったが大雨や強風となる日もあった。気温の変動が大きく、上旬は北日本を中心に、下旬は西日本を中心に寒気が入り低温となった。

II 病害虫発生の概要

近年見られていた暖冬傾向はなく平年並に推移したことから、春期間における病害虫の発生は平年並となったが、梅雨明け以降、各地域で低温、日照不足の影響を受け、いもち病の発生が多くなった。また、台風の接近による海外飛来害虫の近年にない多飛来および残暑と 9 月の台風通過後の高温による害虫の発生量の高まりにより、害虫の広域な発生が確認された。

1 水稻

病害では、いもち病の発生が、5 月上旬ごろから九州山沿いの早期水稻地帯において見られ始め、平年より早い葉いもちの発生となった。その後、北日本を中心とした 6 月下旬から 7 月末までの低温・日照不足、8 月中下旬のぐずついた天候により、いもち病の好適な発生条件となったことから、東北から中国地域にわたる広域な地域でいもち病が発生し、上位葉での病斑形成の増加が見られる地域や、出穂期の長期化による防除適期の見逃しが危惧された地域等で発生予察情報により防除の徹底が呼びかけられ、作期を通して警報が 5 件、注意報が 26 都府県で延べ 34 件発表された。近年いもち病が大発生

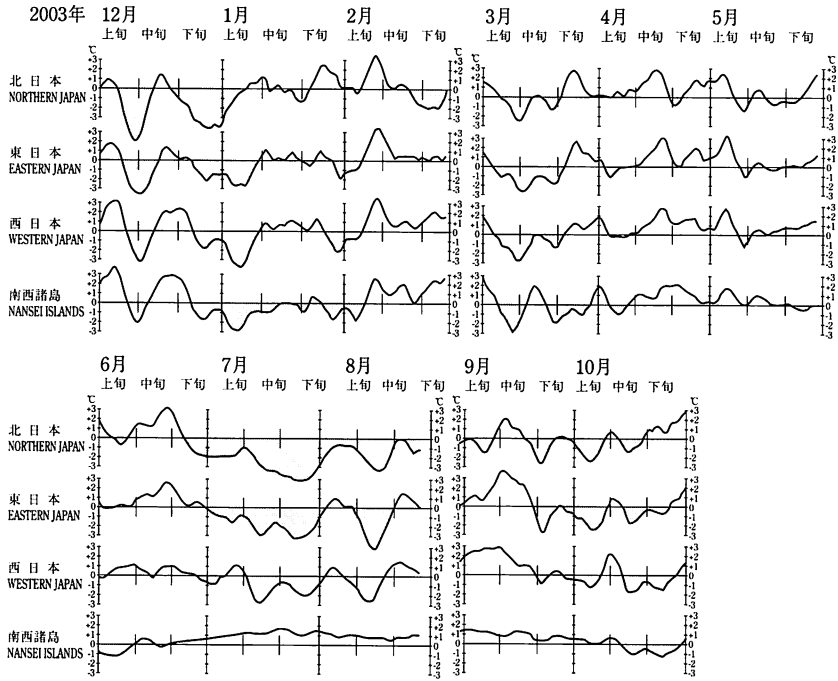


図-1 地域平均気温平年差の経過 (5日移動平均) : 気象庁公表資料の抜粋

した平成5年においては、30府県で延べ31件の警報が、45都府県で延べ73件の注意報が発表されていたことと比較すれば、①葉いもちに対する予防効果の高い箱施用剤の普及等もあり、生育初中期の発生が抑制されたこと、②警報や注意報が発表された都府県においては、晴れ間をぬって、穂ばらみ期から穂ぞろい期の穂いもちの防除が実施され、穂いもち多発生の兆候が見られる地域においては、追加防除が実施または実施の指導が徹底されたこと等から、北日本の一部、中国地域の一部中山間地域等で多発生が見られたものの、平成5年ほどの全国的な大発生とはならなかった。

害虫では、ウンカ類の初飛来は6月中旬にまず九州地域に飛来が確認され、続いて、中国、四国、2日遅れて近畿、東海および南関東で確認された。その後、梅雨前線の活動が活発化し始めた6月23日前後から6月下旬にかけて、西日本を中心に飛来波があった。7月10日前後には梅雨前線が北上し南西よりの風が強まったことから、九州から東北にかけて広域に飛来が確認された。例年になく数回にわたり多飛来となり、注意報が2件発表されるほか、防除情報による指導が実施された。これら飛来のほとんどはセジロウンカであり、トビイロウンカの飛来は少ないが、8月中下旬に九州、四国地域を中心に発生量の高まりがあった。

海外飛来害虫であるコブノメイガは、6月下旬から7

月上旬にかけて九州北部地域で飛来が確認され7月中下旬には、四国および近畿地域の一部で多量の飛来が確認され、注意報が11件発表された。平年より早く飛来が確認され、発生量も多かったことから各地域で防除が呼びかけられ、特に出穂が遅れていた地域では注意が必要となった。一方、後期害虫である斑点米カメムシ類については、6月末から早期水稻周辺の雑草地で発生量が多くなり始め、7月上旬から注意報が発表され、8月末までの間に警報1件、15道府県から18件の注意報が発表された。本年は、ここ数年の発生量には至っていないが、北日本では発生量が多く、8月上中旬には出穂のピークと相まって水田内での発生が多くなり、防除の徹底が図られた。しかし、出穂期の低温・日照不足により籾数が減少し、登熟期に天候が回復したことから割もみが生じた地域等では、当該虫の被害による斑点米の発生が生じた。

2 その他普通作

麦では、開花期、出穂期を迎えた4月中下旬に高温、湿潤となった地域で、赤かび病の発生に注意が呼びかけられ、4月から5月にかけて注意報が12件発表されたが、防除適期に降雨が続いた地域では、赤かび病による被害が平年より多く発生した。

大豆では、8月上中旬に多雨となった九州地域で、べと病の発生が平年よりやや多くなった。害虫では、西日本を中心に7月中下旬からハスモンヨトウの発生量が高

表-1 病虫害発生・防除状況 (平成 15 年 10 月 1 日現在)

(単位：千 ha, %)

病虫害名	概 評	延べ		ハダニ類	年並。	9 (75)	68 (47)
		発生面積 (前年比)	防除面積 (前年比)				
(イネ)				(ナシ)			
葉いもち	関東, 東海, 中国の一部で多。	565(120)	1,685(104)	黒斑病	年並。	2(100)	45 (83)
穂いもち	東北および中国の一部で多。	568(184)	2,099(106)	黒星病	北陸, 東海および中国の一部で やや多。	4(133)	134(100)
紋枯病	年並以下。	615 (91)	952(101)	ナシヒメシンクイ		1(100)	56(110)
白葉枯病	年並以下。	16(123)	24 (67)	ハダニ類	年並。	5 (83)	42 (89)
ばか苗病		10 (83)	1,110 (88)	カメムシ類	関東の一部でやや多。	2 (67)	22 (69)
縞葉枯病	年並以下。	22(129)	— —	アブラムシ類	年並。	7 (88)	43 (94)
もみ枯細菌病	年並以下。	25 (66)	183 (90)	(モモ)			
稲こうじ病	東北でやや多～多。	166(137)	53 (82)	せん孔細菌病	南東北で多, 甲信でやや多。	3(100)	41(105)
ニカメイガ	年並。	140 (74)	631(100)	灰星病	甲信以西の一部でやや多。	1(100)	44 (98)
セジロウンカ	関東～九州でやや多～多。	833(152)	1,354(103)	(ブドウ)			
トビイロウンカ	中国および四国の一部でやや多。	69(157)	881 (98)	晩腐病		2(100)	51 (94)
ヒメトビウンカ	北陸, 東海および近畿の一部で多。	592 (82)	1,322(101)	べと病	東海および九州の一部でやや多 ～多。	7(175)	70 (97)
ツマグロヨコバイ		558 (78)	1,151(104)	灰色かび病	関東の一部で多。	2(100)	32 (97)
イネハモグリバエ	全国的に年並。東北の一部で 多。	3(150)	58 (78)	(カキ)			
イネドロオイムシ	関東でやや多～多。その他年並 ～年並以下。	208 (97)	725 (96)	うどんこ病		9(113)	55(120)
斑点米	東北, 北陸, 近畿, 中国および 四国の一部でやや多～多。	462 (95)	1,872 (99)	落葉病類		6(100)	52(108)
カメムシ類				カメムシ類	年並以下。	4 (44)	32 (58)
アワヨトウ	年並。	5 (83)	71 (97)	カキグ	年並。	2 (50)	18 (56)
コブノメイガ	全国的にやや多～多。	579(300)	642(148)	アザミウマ			
イネミズゾウムシ	年並以下。	671 (97)	899 (90)	(チャ)			
(ムギ類)				炭そ病	関東, 近畿および九州の一部で やや多。	32(110)	84(102)
さび病類		23 (66)	190 (93)	チャノコカクモン		14(108)	61(102)
うどんこ病		47(102)	219(110)	ハマキ			
赤かび病	関東, 東海, 中国, 四国および 九州の一部でやや多。	86 (97)	536(137)	カンザワハダニ		19 (59)	97(107)
雪腐病類		49(182)	86(110)	(キュウリ)			
(ジャガイモ)				べと病	関東の一部冬春作で多。	6(100)	46 (79)
疫病	九州の一部でやや多。	14 (52)	421(108)	うどんこ病	北陸でやや多～多。	6(100)	41 (80)
(ダイズ)				(スイカ)			
紫斑病	年並。	5 (26)	105 (89)	つる枯病	北陸の一部で多	4(133)	30 (88)
アブラムシ類		39 (93)	77 (75)	(ハクサイ)			
ハスモンヨトウ	東海以西でやや多。	43(105)	77 (74)	軟腐病		1 (50)	20 (80)
ハダニ類	年並以下。	11 (52)	5 (24)	白斑病		2(100)	15 (79)
カメムシ類	年並。	26 (72)	95 (82)	(キャベツ)			
(カンキツ類)				黒腐病		2 (50)	23 (79)
そうか病	年並。	14(100)	81 (92)	コナガ		9 (75)	50 (69)
黒点病	関東, 東海, 四国および九州の 一部でやや多。	65(128)	261(293)	(タマネギ)			
かいよう病	中国, 四国および九州の一部で やや多～多。	18(139)	65 (72)	べと病	近畿以西でやや多。	2(100)	15 (88)
ヤノネ		5(100)	63 (69)	(野菜共通)			
カイガラムシ				疫病	トマトの夏秋作でやや多。	6(300)	38 (86)
ミカンハダニ	年並。	53 (86)	223(242)	灰色かび病	トマトでやや多。	6 (86)	51 (70)
カメムシ類	東海の一部で多。	9 (50)	25 (27)	アブラムシ類	年並。	27 (71)	180 (70)
(リンゴ)				ハダニ類	年並以下。	10 (77)	55 (81)
モニリア病		1(100)	8 (11)	ハスモンヨトウ	東海以西でやや多。	5 (56)	27 (61)
腐らん病	東北でやや多。	4 (44)	33 (50)	ヨトウガ	年並。	5 (83)	64 (96)
斑点落葉病	東北の一部でやや多。	9 (43)	139 (37)	(キク)			
黒星病	年並以下。	1 (33)	92 (34)	白さび病	夏秋作でやや多。	1(100)	9 (75)
ハマキムシ類	年並。	1 (25)	69 (38)	アザミウマ類	年並。	1 (50)	8 (62)
				アブラムシ類	年並以下。	1 (50)	7 (78)

表-2 平成 15 年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況

(1) 警報・注意報(注:数字は発表年月日,斜体アンダーラインは警報)

(11月28日現在)

①イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	コブノメイガ	その他の病害虫
北海道					8/11		
東北	青森	7/2	8/8		8/6		稲こうじ病: 7/23
	岩手 宮城 秋田 山形 福島	7/11	7/23・ <u>7/31</u> 7/25・ <u>8/13</u>		8/12 7/8・8/8 7/14・8/20 7/2・8/11		
関東	茨城		7/17・8/20		7/24		もみ枯細菌病: 4/2
	栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		7/31 8/13 7/31 8/8 7/31	7/24 7/18		7/31	
北陸	新潟 富山 石川 福井	7/4	7/15・ <u>7/24</u>	7/14	7/18 7/18 7/14 7/11	8/14	セジロウンカ: 8/14
東海	岐阜 愛知 三重	7/7 6/26	8/8・ <u>8/20</u> 7/31 7/17		7/23		イネクロカメムシ: 7/7
近畿	滋賀	7/2	7/15	7/16	7/15・ <u>8/8</u> 7/24	7/18	
	京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	7/9	7/29 8/19	7/4		7/24	
中国四国	鳥取		7/15・ <u>8/15</u> 7/24	7/11		7/28 8/1 8/1	セジロウンカ: 7/27
	岡山 広島 山形 徳島 香川 愛媛 高知			7/18		7/31 7/29	
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島				7/2	7/23 7/16	
沖縄							

(11月28日現在)

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他
北海道			赤かび病：5/27 (コムギ)
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		ジャガイモヒゲナガアブラムシ：8/8 (ダイズ) ジャガイモヒゲナガアブラムシ：8/14 (ダイズ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡県		赤かび病：4/30 (ムギ類)
北陸	新潟 富山 石川 福井		赤かび病：4/21 (オオムギ) 赤かび病：4/30 (オオムギ) 赤かび病：4/25 (オオムギ)
東海	岐阜 愛知 三重		赤かび病：4/22 (ムギ類) 赤かび病：4/18 (ムギ類)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山	7/28 (マメ類) 9/25 (ダイズ)	
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	8/26 (ダイズ) 9/3 (ダイズ) 8/26 (ダイズ) 8/20 (ダイズ) 9/18 (ダイズ) 9/8 (ダイズ・飼料作物)	赤かび病：4/8 (ハダカムギ)・4/25 (コムギ) 赤かび病：4/3 (ムギ類)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/11 (ダイズ) 9/26 (ダイズ) 9/2 (ダイズ)	赤かび病：4/24 (ムギ類) 赤かび病：5/1 (ムギ類), 疫病：5/2 (バレイシヨ)
沖縄			

(11 月 28 日現在)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北 海 道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		灰星病：5/22 (オウトウ) 斑点落葉病：7/8 (リンゴ) 晩腐病：6/17 (ブドウ) 腐らん病：6/6 (リンゴ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	6/24 (ナシ) 6/25 (ナシ・リンゴ) 6/11 (ナシ・ビワ等) 5/12 (ナシ・リンゴ) 6/2 (ナシ・カキ・キウイフルーツ・ウメ等) 5/7 (ナシ・カキ・モモ・早生ミカン等)	
北陸	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重		べと病：6/10 (ブドウ)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山		せん孔細菌病：5/15 (モモ)
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	10/2 (温州ミカン) 9/3 (ナシ・カキ・カンキツ類)	べと病：7/22 (ブドウ) 炭疽病：6/16 (チャ)
沖 縄			

(11月28日現在)

④野菜		ハスモンヨトウ	その他
北海道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		さび病：8/19 (ネギ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		さび病：11/11 (ネギ類) オオタバコガ：5/30 (野菜共通) ナモハモグリバエ：7/18 (レタス)
北陸	新潟 富山 石川 福井		黒斑病：9/1 (ネギ)
東海	岐阜 愛知 三重		灰色かび病：7/23 (トマト), 疫病：8/13 (トマト)
近畿	滋賀 京都 大阪	7/28 (野菜共通)	べと病：4/17 (タマネギ), すずかび病：5/16 (ナス), オオタバコガ：5/30 (ナス), ミカンキイロアザミウマ：6/24 (ナス), うどんこ病：9/19 (キュウリ)
	兵庫 奈良 和歌山	9/25 (野菜共通)	
中国四国	鳥取	9/3 (アブラナ科)	白色疫病：3/6 (タマネギ), 灰色かび病：3/6 (レタス), うどんこ病：7/31 (イチゴ), 菌核病：11/6 (レタス), 炭疽病：8/28 (キュウリ), タバコガ類：7/31 (野菜類)
	島根	8/26 (野菜共通)	
	岡山 広島 山口 徳島 香川	8/20 (野菜共通)	
	愛媛 高知	9/18 (野菜共通) 9/8 (野菜共通)	
九州	福岡		ハダニ類：11/7 (イチゴ)
	佐賀 長崎	9/11 (野菜共通)	炭疽病：7/15 (イチゴ), ハダニ類：11/17 (イチゴ) 炭疽病：6/2 (イチゴ), トマト黄化葉巻病：3/27・7/23 (トマト)
	熊本 大分 宮崎	9/26 (野菜共通)	べと病：3/24 (ネギ)
	鹿児島	9/2 (野菜共通)	トマト黄化葉巻病：8/11 (トマト)
沖縄			

(11 月 28 日現在)

⑤花き類		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		花腐菌核病：8/4 (リンドウ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		オオタバコガ：5/30 (花き共通)
北陸	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重		白さび病：6/2・6/22 (キク)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	7/28 (花き共通) 9/25 (花き共通)	
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	8/26 (花き共通) 9/18 (花き共通) 9/8 (花き共通)	タバコガ類：7/31 (野菜類)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/11 (花き共通) 9/26 (花き共通) 9/2 (花き共通)	
沖 縄			

(2) 特殊報 (注: 数字は発表年月日)

(11 月 28 日現在)

		①普通作	②果樹類	③野菜類 (花き類含む)
北海道				6/23 : 各種野菜・花き類のアシクロハモグリバエ
東北	青森 山形			11/17 : メロンのつる割病レース 1, 2y 5/8 : スイカの炭腐病 8/11 : トマト・キュウリ・カボチャのトマトハモグリバエ
	福島			10/15 : トマトのトマトハモグリバエ
関東	茨城	5/2 : 牧草類のアルファルファタコゾウムシ		
	群馬	6/26 : レンゲのアルファルファタコゾウムシ		
	埼玉 東京 神奈川	6/2 : シロツメクサのアルファルファタコゾウムシ		11/5 : ブラタナスのブラタナスグンバイ 6/6 : キュウリの黄化えそ病 (MYSV) 10/9 : クワイ・アガパンサスのクリバネアザミウマ
	長野	10/2 : 水稻のクモヘリカメムシ		2/5 : イチゴのオオタバコガ 4/24 : ホウレンソウのべと病 6/24 : イチゴの角斑細菌病
	静岡	7/17 : レンゲ・牧草のアルファルファタコゾウムシ		10/15 : エンドウの萎凋病
北陸	新潟			11/13 : トマト・キュウリ・メロンのトマトハモグリバエ
東海	愛知			1/31 : エンドウの萎凋病
近畿	兵庫			6/5 : レタスのバーティシリウム萎凋病
中国 四国	岡山		6/4 : カンキツ類のツマグロハギカスミカメ	6/18 : ミヤコワスレ・スクテラリアのえそ病 (TSWV)
	山口 徳島 愛媛			6/23 : キュウリのアシクロハモグリバエ 3/24 : レタスのビッグベイン病 1/31 : キクのえそ病 (TSWV)
	高知			3/31 : ピーマン・シシトウのクリバネアザミウマ 4/14 : ピーマン・シシトウ・ナス等のマデイラコナカイガラムシ 4/14 : ピーマン・シシトウ・ナスのナスコナカイガラムシ
				11/12 : ニラ・トルコギキョウのえそ輪紋病 (IYSV)
九州	福岡	7/15 : ジャガイモの黄化えそ病 (TSWV)		6/2 : イチゴのマルガツツヤヒラタゴミダマシ 6/2 : コチョウランのランヒメハダニ 7/15 : ジャガイモの黄化えそ病 (TSWV) 7/15 : カキのヒメコスカシバ 9/1 : トルコギキョウのえそ輪紋病 (IYSV) 11/6 : キュウリの黄化えそ病 (MYSV) 9/9 : トルコギキョウの葉巻病 (TYLCV) 10/1 : トマトの黄化葉巻病 (TYLCV)
	熊本 大分 宮崎			8/4 : トルコギキョウの葉巻病 (TYLCV)

表-3 平成15農薬年度農薬出荷状況(推定)
(単位:t, kl 百万円, %)

用途		平成14農薬年度	平成15農薬年度(推計)	
		出荷実績	出荷	対前年比
殺虫剤	数量	112,991	105,000	93
	金額	125,657	117,000	93
殺菌剤	数量	64,217	65,000	100
	金額	79,979	76,000	95
殺虫殺菌剤	数量	32,363	30,000	94
	金額	33,089	32,000	96
除草剤	数量	68,868	70,000	102
	金額	109,229	110,000	101
その他	数量	20,570	19,000	91
	金額	13,501	13,000	98
合計	数量	299,009	289,000	97
	金額	361,455	348,000	97

資料：農産安全管理課調べ。

まり、7月下旬以降、注意報が11件発表された。

3 果樹

病害については、梅雨明け以降、低温、日照不足、長雨により、なし黒星病、ぶどうべと病、もも灰星病の発生が東海以西の地域で多く見られた。また、本年は台風の襲来が平年より早く、その後の7月、8月に降雨が多かったことから、中国、四国および九州地域で、かいよう病、黒点病の発生が平年よりやや多くなった。その他、りんご腐らん病の発生が北日本および甲信で多く見られ、注意報が1件発表された。

害虫では、一昨年末から昨年3月の間に見られた低温のため、果樹カメムシ類の越冬量は全国的に少なかったが、関東および東海地域で発生が多く見られ、越冬成虫に対する注意報が6件発表された。また、当年世代成虫に対しては、9月以降九州地域で発生が多く見られ、注意報が2件発表された。その他、気温が高めとなった8月下旬以降9月にかけてシンクイムシ類の発生が多くなった地域があった。

4 野菜および花き

大豆の害虫でもあるハスモンヨトウの発生が9月以降西日本地域を中心に多く見られ、注意報が11件発表された。その他、低温、日照不足となったことから、ネギ類のべと病、トマト疫病、灰色かび病等、病害の発生に注意が呼びかけられ、注意報が発表された。

III 病害虫防除事業

1 ウリミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島および沖縄県において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において不妊虫放飼による再侵入防止防除を実施した。

2 ミカンコミバエ

本虫の再侵入を防止するため、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄および小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

平成9年12月に発生が確認された鹿児島県屋久町におけるイモゾウムシについては、緊急防除の告示および省令により寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において殺虫剤の散布、野生寄主植物の除去などによる防除を実施した。

当該地域では本虫が発見されなくなったことから、昨年6月から植物防疫所が根絶を確認するための駆除確認調査を実施しているところである。

また、奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシおよびアリモドキゾウムシを対象にして不妊虫放飼などによる根絶防除を継続して実施している。

IV 農林水産航空事業等

本年度の農林水産航空事業の農業関係延べ実施面積は、3,242千haとなる見込みである。

本事業の基幹である水稻部門は、実施延べ面積454千haであり、剤型別では、液剤185千ha、液剤少量64千ha、微量剤164千ha、粒剤6千ha、粒剤少量42千haとなった。

畑作・果樹部門では、麦、大豆、粟等の病害虫防除が6千haであった。畜産部門は牧野の施肥等が2千haであった。ミバエ部門はミバエ類の侵入防止防除等が行われ、2,621千haであった。

また、周辺環境等に配慮した散布方法として、昨年は機体中央のノズルだけを使用するカーテン散布および微量散布用片側アトマイザー散布の試験が行われ、一昨年の片側ブーム散布方法同様、有効な飛散防止技術であることが示唆された。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、約563千ha、対前年124.5%を上回る増加見込みとなっている。

V 農薬の出荷状況

平成15農薬年度(平成14年10月~平成15年9月)における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では3%減の289千t、金額では3%減の3,480億円程度と推定される。